



日本学術会議公開シンポジウム 増大する災害と地球環境問題に 地球人間圏科学はどう取り組むか？

平成 25 年 12 月 5 日(木) 13 時 00 分～17 時 00 分



主催 日本学術会議地球惑星科学委員会地球人間圏分科会
共催 (社)日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、(社)日本地理学会
 アジアの持続可能な土地利用プロジェクト(SLUAS)
場所 日本学術会議講堂(東京都港区六本木 7-22-34, 地下鉄千代田線乃木坂駅青山霊園出口)
申込 事前の申込みは不要です。会場に直接おいでください

現在世界は多くの深刻な地球環境問題を抱えており、また同時に、震災や異常気象災害などの自然災害の増加に苛まれています。ICSU(国際科学会議)と ISSC(国際社会科学協議会)が主導する Future Earth 計画による地球環境研究と災害・防災研究の大規模な再編成は、そのような深刻な状況の改善をめざすものです。Future Earth は世界の持続可能性を高めることを目的とした研究計画であり、それを遂行する上で、これまで学際的観点から地球人間圏の自然科学的・人文社会科学的諸事象を研究し、様々な地球環境問題や災害の軽減に取り組んできた地球人間圏科学が果たすべき役割は極めて大きいと言えます。本シンポジウムは、地球人間圏科学を構成する諸分野で現在世界をリードする活躍をしている研究者たちを招き、国内の研究者と共に地球人間圏科学のこれまでの成果を吟味し、地球環境問題と災害の軽減に向け、Future Earth 計画において地球人間圏科学が目指すべき方向性、果たすべき役割とその具体化への行程などを検討し、提案します。なお講演と総合討論は英語と日本語で行なわれます。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

プログラム

[総合司会] 小口 高 (日本学術会議連携会員、東京大学空間情報科学研究センター教授)

開会の挨拶、趣旨説明

氷見山幸夫 (日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教授)

講演

○ Geographical Contributions to the Future Earth Initiative

Ronald Abler (Former President of the International Geographical Union)

○ 21 世紀—人類史のターニングポイント—世界人口、国際社会変動、環境問題と巨大都市化をどのように潜り抜けるか？

丸山 茂徳 (日本学術会議連携会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授)

○ Infrequent Natural Hazards: the 2004 Indian Ocean and 2011 Tohoku Japan Tsunamis

佐竹 健治 (日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所地震火山情報センター教授)

○ Indonesian Experience in Dealing with Increasing Local and Global Disasters Risk

Ernan Rustiadi (Bogor Agricultural University)

○ 高レベル放射性廃棄物の地層処分

千木良雅弘 (日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所教授)

(背景写真: 2013.9 岩沼)

○ Global Environmental Change and Increasing Disasters in India: Implications for Human Geoscience and Future Earth

R.B. Singh (University of Delhi)

○ Climate Changes in Monsoon Asia and Human Geoscience

松本 淳 (日本学術会議連携会員、首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授)

総合討論・閉会の挨拶

春山 成子 (日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授)



(2013.9 南相馬)

問い合わせ先 氷見山幸夫 (北海道教育大学、E-mail: himiya.yukio@hokkyodai.ac.jp, Tel.Fax: 0166-59-1283)